

石岡地区保護司会 会長賞

「つながり」

小桜小学校 五年 舟串 凜々香（ふなくし りりか）

先日、兄と兄の友人が将来の話をしてた時、友人は将来なりたいのは調理師だと言った。私も兄も、友人が料理をするのが好きであり、やっぱりと思った。兄が友人に、「調理師になったら腕をみがいて、自分の店を持ったら、食へに行くよ。」と言った。私も「私も行くよ。何のお店を持ちたいの。」とたずねると、「何かの店じゃないよ。僕は子供食堂のような食堂をやりたいんだ。」と言った。

私も兄もあまりに意外な返答に、しばらく黙ってしまった。友人はいつもおちゃらけていて、友人がまさか「子供食堂」と言うとは思ってもいなかったからだ。私より先に兄が口を開いた。「いいよ。いいじゃないか。」
私も後から続いて、「うん。うん。」とうなずいた。友人は、「もうけとかじ

やなくて、一人で寂しい子供や、温かいご飯を誰かと食べたがっている人達、居場所がない人が、帰ってきたい。また行きたいと思うような子供食堂をやってみたいんだ。」と言った。

友人は三人兄弟で、毎日楽しそうで両親もとても教育熱心だ。そんな友人がそういった心にぽっかり穴の開いた人達の心に何かしたい、役に立ちたいと考えていたことに、とても感動し、そんけいした。

なぜ非行に走る人がいるのか？心の寂しさがあるからではないのか？私は調べてみた。

非行の原因は大きく分けると四つに分類されるそうだ。自分自身の問題。学校の問題。家庭の問題。地域社会の問題である。その中で、私は地域社会の問題が最も興味深かった。

なぜなら、地域社会なら私も何か変える事ができるのではないかと思っただからだ。地域社会の問題の原因は何か？次の四点が考えられる。となり近所との関係が希薄。インターネットにより数多くの情報に触れられる環境。いつ脱した友人との交流。社会全体の規はん意識の低下である。

インターネットはとても便利で、私も良く活用している。しかし、一歩使い方をあやまると、取り返しのがたない事件にまき込まれてしまう恐ろしさもある。小学校でもこの問題についてはよく取りあげられている。

また、SNSなど顔も知らない人と文字だけの交流をし、それが全てになっってしまう、生の人と人との対話をすることが少なくなり、引きこもってしまふ人達の話もよく聞く。となり近所

との関係が希薄の点については、インターネットも少なからず影響しているのではないか。

兄の友人が言っていたように「子供食堂」のような、人と人が心を通わせあう事ができる場所、寂しい時に寂しいと言える人が居る事、人と人がつながって、お互いに必要な存在になる事。そんな温かいつながりが広がれば非行は減っていくのではないか。

私に出来る事は何か？今はまだ何もできないかもしれない。でも、身近な人達、学校の友達とのつながりを大事にし、温かい輪を広げていきたいと思えます。小さなつながりの輪は、続けていけば、大きなつながりの輪になり、いつか社会を明るくする事ができるのではないのでしょうか。

